

高時川上・中流の漁場環境と魚類の生息状況

吉岡 剛・幡野真隆

1. 目的

令和4年8月4日～5日に、高時川上流域で、時間雨量約90mm、累計雨量305mmの豪雨が発生し、高時川流域に大きな被害をもたらした。その後も濁水が続き、丹生川漁協と高時川漁協は令和5年のアユ漁業を休漁とした。そこで、濁水が続いている高時川本流と水が澄んでいる支流において、付着藻類の状況および魚類生息状況を調査した。

2. 方法

令和5年6月21日、8月30日に地点①妙理川(高時川との合流より50m上流)、地点②高時川(宮前橋上流)、地点③杉野川(関電排水口上流)、地点④高時川(川合橋下流)の4地点で調査を実施した。

調査項目は、水温、透視度、付着藻類量、魚類生息状況とし、付着藻類量は河川内の石3個から付着藻類を採取し分析に用いた。魚類生息状況は、エレクトリックショッカーで10分間の採捕を実施し、魚種判別を行った。

3. 結果

調査時の水温を表1に示す。なお、透視度は全ての地点において50cm以上であった。

表1 河川水温

調査日	地点①	地点②	地点③	地点④
6/21	16.8℃	17.2℃	17.3℃	18.4℃
8/30	24.4℃	24.4℃	23.2℃	24.9℃

付着藻類量(有機物量)は、6月21日の地点①で1mg/cm²を超えていたが、その他は0.5mg/cm²以下と少ない状況にあった(図1)。また、6月21日の地点④では石に泥が付着しており、付着物に占める無機物割合が高い状況にあった(図2)。

魚類採捕調査は、8月30日の地点②③④では琵琶湖から遡上したと思われるアユが確認

され、アユ漁場として利用が可能であると思われる(図3、図4)。

